

シラバス参照

授業科目名	リハビリテーション概論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	6038
授業担当者氏名	清水順市(シミズ ジュンイチ) 齋藤昭彦(サイトウ アキヒコ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念を説明できる。(DP1, DP2, DP3,) ・リハビリテーションの歴史を説明できる。(DP1, DP2, DP3,) ・日本におけるリハビリテーションの発達を説明できる。(DP2, DP3) ・リハビリテーション医学とリハビリテーション専門職の関係を説明できる。(DP2, DP3,) ・リハビリテーション専門職の役割を説明できる。(DP3) 	
授業概要	<p>リハビリテーションの全体像を学ぶ。その主な講義内容は、リハビリテーションの概念、理念、歴史、リハビリテーションの対象となる障害、障害の意味(国際障害分類および国際生活機能分類による)、障害者の種別と人数、障害者の心理、リハビリテーションチームの構成と関連職種、リハビリテーションの関係施設(病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等)、リハビリテーションの諸制度と関係法規および行政に関することである。</p>	
教育課程内の位置づけ	<p>リハビリテーション学科 作業療法学・理学療法学専攻 専門教育科目 専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 1年 必修科目 (看護学科 1年 必修科目)</p>	
授業におけるアクティブな特徴	特徴	該当
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	○
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○
	D: グループワーク	○
	E: プレゼンテーション	○
	F: 実習、フィールドワーク	-
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○
	I: 反転授業	-
	J: 外国語のみで行われる授業	-
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業		
実施形態	対面授業科目	
実施形態について	<p>※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目 : 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目 : 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる可能性があります。 変更の場合はmanaba等で連絡します。</p>	
授業計画	第1回	リ世界のリハビリテーションと日本のリハビリテーションの歴史 WHOの障害と健康(ICF)の考え方の変遷
	第2回	ハビリテーションの概念: 医学的、社会的、教育学的、生物学的観点から違いを説明する リハビリテーションの対象となる障害と疾患、そしてアプローチ
	第3回	理学療法の概要 その1: 役割と対象者 理学療法の概要 その2: 理学療法現場における業務、評価アプローチ
	第4回	理学療法の治療アプローチ 理学療法の現在と未来

	<p>第5回 作業療法の概要 その1:役割と対象者 作業療法の概要 その2:評価とアプローチ</p> <p>第6回 作業療法の治療アプローチ 作業療法の現在と未来</p> <p>第7回 リハビリテーション関連職と職種間連携 地域リハビリテーションと地域包括ケア</p>			
授業外学修 予習(事前学 修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">リハビリテーションに関する書籍はたくさんある。 講義前半における事前学習として最低一冊の本を読んで、その感想をまとめ、クラスで発表できる準備をしておくこと。 各講義の事前学習として、各章を読んでおくこと(毎回30分以上)。</td> </tr> <tr> <td>[平均30分]</td> </tr> </table>	各授業	リハビリテーションに関する書籍はたくさんある。 講義前半における事前学習として最低一冊の本を読んで、その感想をまとめ、クラスで発表できる準備をしておくこと。 各講義の事前学習として、各章を読んでおくこと(毎回30分以上)。	[平均30分]
各授業	リハビリテーションに関する書籍はたくさんある。 講義前半における事前学習として最低一冊の本を読んで、その感想をまとめ、クラスで発表できる準備をしておくこと。 各講義の事前学習として、各章を読んでおくこと(毎回30分以上)。			
[平均30分]				
授業外学修 復習(事後学 修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">事後学習として、クラスメートが発表した内容を自分なりにまとめること。</td> </tr> <tr> <td>[平均30分]</td> </tr> </table>	各授業	事後学習として、クラスメートが発表した内容を自分なりにまとめること。	[平均30分]
各授業	事後学習として、クラスメートが発表した内容を自分なりにまとめること。			
[平均30分]				
評価方法	レポート・クイズ:30% 定期試験 :70%			
教科書等	奈良 勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観. 文光堂			
課題に対するフ ィードバックの 方法	・クイズを実施した場合、その時間内でフィードバックする。			
その他				
授業担当者の 実務経験の有 無	清水順市:実務経験あり 斎藤昭彦:実務経験あり			
「授業担当者の 実務経験の内 容」および「実 務経験を活かし た授業内容」	各種神経疾患、脳血管障害、切断、認知症、精神障害等多数のリハビリテーションを経験した。経験した事例から、リハビリテーション計画書の作成、自宅復帰、在宅リハ等の実際について説明する。			
ファイル				